

IV 人間福祉学研究科

1 2019年度教育課程表

2 学位授与へのプロセス

3 臨床心理学専攻の実習計画について

1. 2019年度教育課程表

人間福祉学専攻 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
人間福祉学領域							
人間福祉学特論	講義	②				今井博康 尾形良子 梶晴美 黒澤直子 佐々木浩子 佐藤克之 大宮司信 吉田修大	
地域創生特論	講義	2				佐藤克之	隔年開講・集中講義
学際領域特論	講義			2		佐藤克之	隔年開講・集中講義
人間福祉学研究法Ⅰ	講義	2				森下義亜	集中講義
人間福祉学研究法Ⅱ	講義		2			森下義亜	集中講義
キャリアパス特論	講義			2		尾形良子	集中講義
社会福祉学領域							
ソーシャルワーク特論	講義	2				黒澤直子	集中講義
高齢者福祉特論	講義	2				吉田修大	集中講義
障害福祉特論	講義		2			近藤尚也	集中講義
地域福祉特論	講義			2		尾形良子	集中講義
医療福祉特論	講義		2			黒澤直子	集中講義
スーパービジョン特論	講義		2			今井博康	集中講義
精神保健福祉特論	講義			2		今井博康 尾形多佳士	集中講義
社会福祉演習	演習			2		尾形良子 黒澤直子	集中講義
スーパービジョン演習	演習			2		今井博康	集中講義
介護福祉学領域							
介護福祉特論	講義		2			梶晴美	集中講義
食生活学特論	講義			2		土屋律子	隔年開講・集中講義
住生活学特論	講義		2			佐藤克之	集中講義
福祉環境特論	講義		2			佐藤克之	集中講義
介護福祉演習	演習			2		梶晴美	集中講義
社会福祉学・介護福祉学共通領域							
人間福祉実践実習指導	講義	←2→				吉田修大 今井博康 梶晴美	集中講義
人間福祉実践実習	実習	←2→				吉田修大 今井博康 梶晴美	集中講義

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
健康福祉学領域							
健康福祉特論	講義		2			上田 泉	集中講義
						坂上 真理	
						古名 丈人	
健康科学特論	講義		2			佐々木 浩子	
保健医学特論	講義	2				大宮司 信	隔年開講・集中講義
心理学領域							
家族心理学特論	講義				2	河岸 由里子	集中講義
基礎心理学特論	講義	2				田辺 毅彦	集中講義
研究指導							
人間福祉特別研究Ⅰ	演習	②				今井 博康	集中講義
						尾形 良子	
						梶 晴美	
						黒澤 直子	
						佐々木 浩子	
						佐藤 克之	
						大宮司 信	
						吉田 修大	
人間福祉特別研究Ⅱ	演習	②				今井 博康	集中講義
						尾形 良子	
						梶 晴美	
						黒澤 直子	
						佐々木 浩子	
						佐藤 克之	
						大宮司 信	
						吉田 修大	
人間福祉特別研究Ⅲ	演習	②				今井 博康	集中講義
						尾形 良子	
						梶 晴美	
						黒澤 直子	
						佐々木 浩子	
						佐藤 克之	
						大宮司 信	
						吉田 修大	
人間福祉特別研究Ⅳ	演習				②	今井 博康	集中講義
					尾形 良子		
					梶 晴美		
					黒澤 直子		
					佐々木 浩子		
					佐藤 克之		
					大宮司 信		
					吉田 修大		

臨床心理学専攻 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
臨床心理学領域							
臨床心理学特論Ⅰ	講義	②				風間雅江 澤 聡一	
臨床心理学特論Ⅱ	講義		②			澤 聡一 風間雅江	
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	講義	②				澤 聡一 飯田昭人	
臨床心理面接特論Ⅱ	講義		②			新川貴紀	
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	講義				2	河岸由里子	集中講義
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2				龍島秀広	
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2				武藤福保	集中講義
心身医学特論	講義		2			大宮司 信	
障害者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	講義	2				風間雅江	
心理療法特論	講義			2		入江智也	隔年開講
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	講義				2	山谷敬三郎	
コミュニティ心理学特論	講義	2				小坂守孝	隔年開講
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義		2			小坂守孝	
心の健康教育に関する理論と実践	講義		2			澤 聡一	
基礎心理学領域							
心理学研究法特論	講義	2				風間雅江 佐藤至英	
認知心理学特論	講義			2		阿部純一	隔年開講
生理心理学特論	講義	2				田村卓哉	隔年開講
発達心理学特論	講義	2				川俣智路	
社会心理学特論	講義				2	栗林克匡	隔年開講・集中講義
演習							
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習		②			新川貴紀 澤 聡一	
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	②				入江智也 飯田昭人	一部集中講義
心理学特別演習	演習	← 4 →				小坂守孝 飯田昭人 入江智也 風間雅江 佐藤至英 澤 聡一 新川貴紀 村瀬嘉代子	

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
実 習							
臨 床 心 理 基 礎 実 習	実習	←②→				新 川 貴 紀	事前事後指導を含む 一部集中講義
						飯 田 昭 人	
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						小 坂 守 孝	
心 理 実 践 実 習 I	実習	←④→				風 間 雅 江	事前事後指導を含む 一部集中講義
						飯 田 昭 人	
						小 坂 守 孝	
						佐 藤 至 英	
						澤 聡 一	
臨床心理実習 I (心理実践実習 II)	実習			←⑧→		風 間 雅 江	事前事後指導を含む 一部集中講義
						飯 田 昭 人	
						小 坂 守 孝	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	
臨 床 心 理 実 習 II	実習			←①→		小 坂 守 孝	一部集中講義
						飯 田 昭 人	
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	
						斉 藤 美 香	
谷 中 みゆき							
研究指導							
修 士 論 文 指 導 I	演習		②			飯 田 昭 人	集中講義
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						小 坂 守 孝	
						佐 藤 至 英	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	
修 士 論 文 指 導 II	演習		②			飯 田 昭 人	集中講義
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						小 坂 守 孝	
						佐 藤 至 英	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	

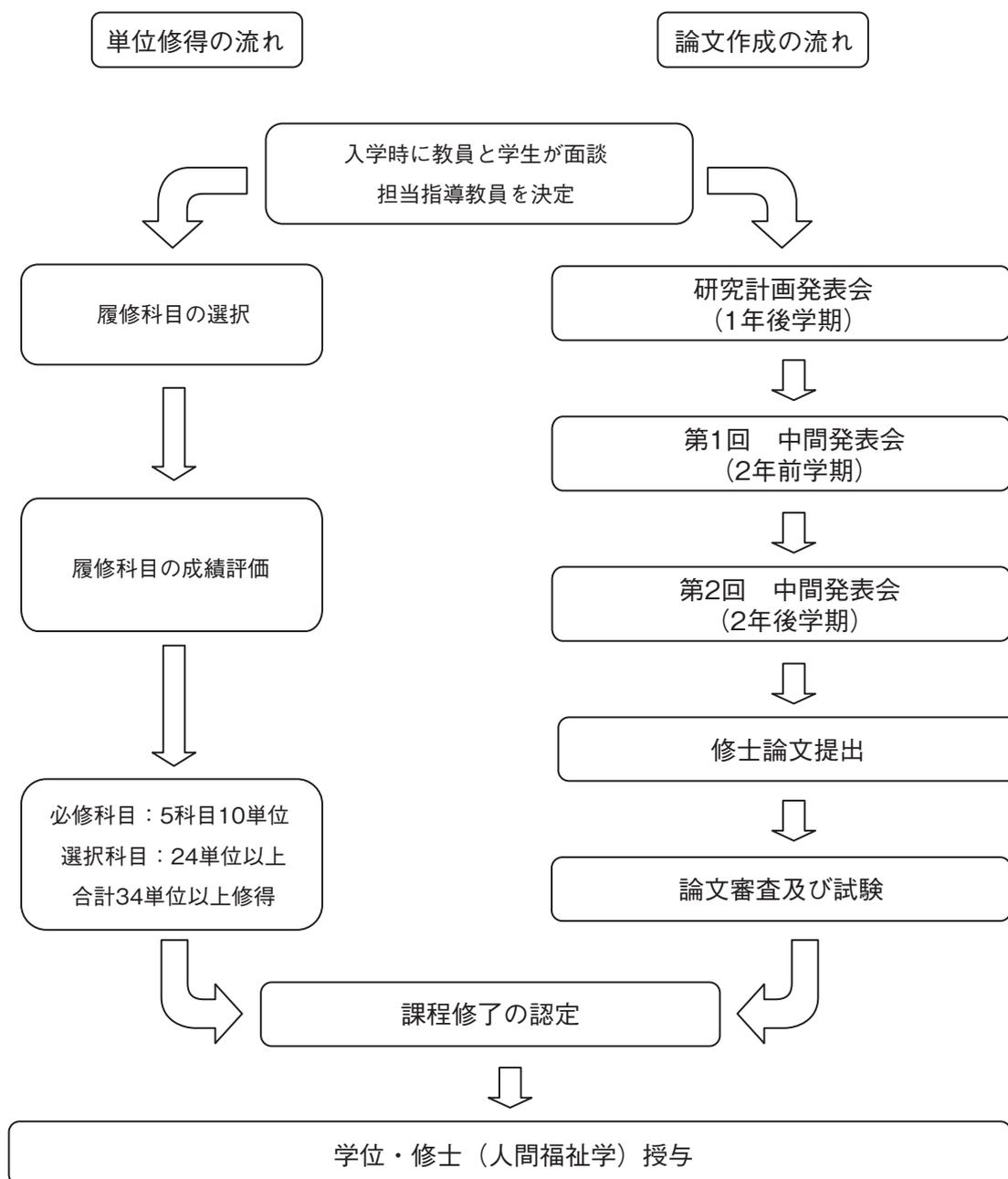
臨床心理学専攻 専門科目

○単位は必修

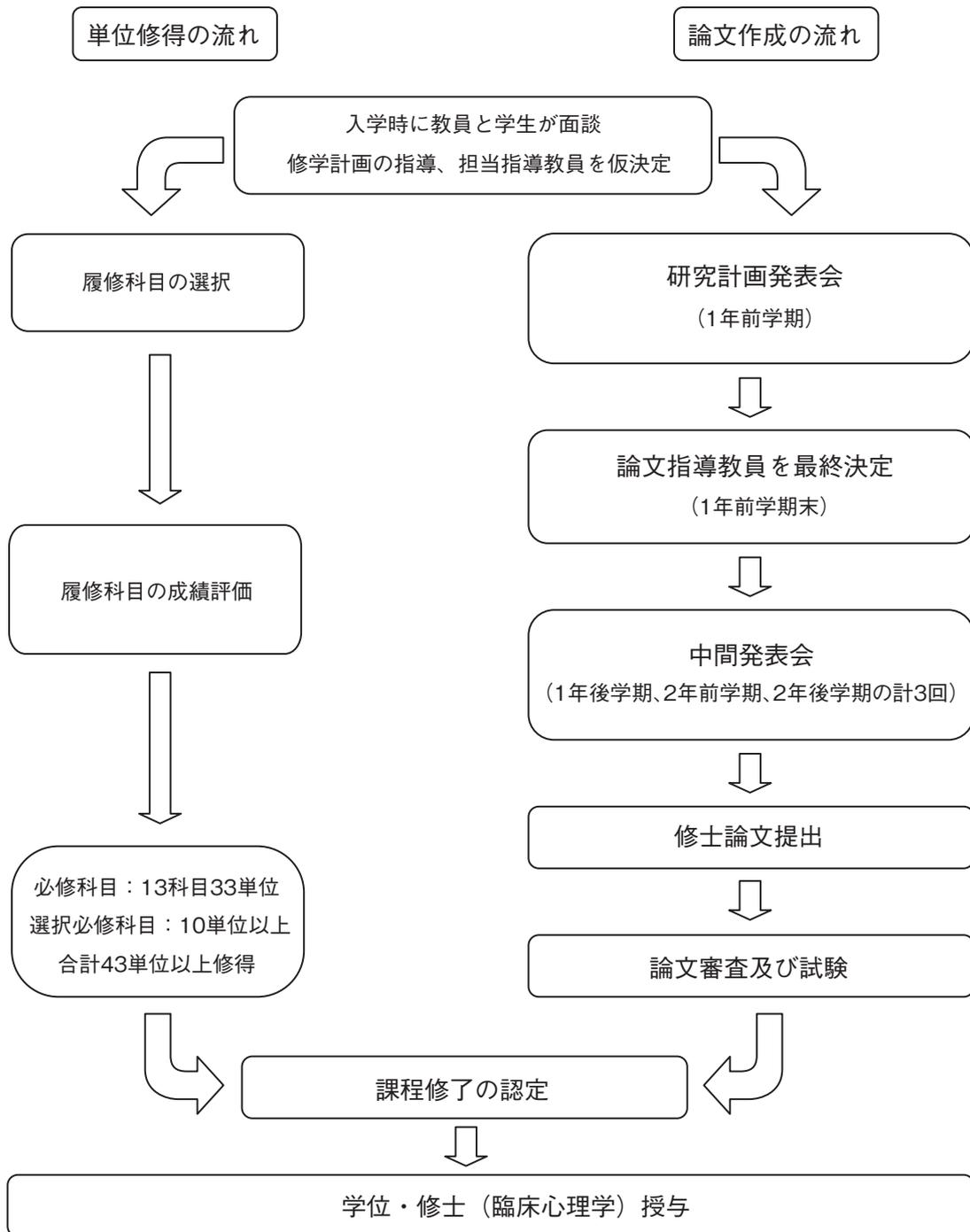
科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
修士論文指導Ⅲ	演習				②	飯田昭人	集中講義
						入江智也	
						風間雅江	
						小坂守孝	
						佐藤至英	
						澤 聡一	
						新川貴紀	

2. 学位授与へのプロセス

①人間福祉学研究科人間福祉学専攻



②人間福祉学研究科臨床心理学専攻



3. 臨床心理学専攻の実習計画について

人間福祉学研究科臨床心理学専攻は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する臨床心理士養成大学院の第1種指定大学院であり、「臨床心理士」の受験資格を取得することができる。加えて、国家資格「公認心理師」の受験資格を取得するうえで必要な大学院の指定科目を設置し、本専攻入学前に出身大学等において省令で定める科目を履修済で、本学大学院の履修規程に則った科目を本専攻で履修した場合に、公認心理師受験資格を取得することができる。

心理臨床の実務を学ぶためには、実習科目における細やかな指導のもと、臨床の実践体験を積み重ねながら洞察を深めることが必要不可欠である。本専攻では、臨床心理士ならびに公認心理師の受験資格を得る上で必要な実習科目として、1年次は「臨床心理基礎実習」(臨床心理士指定科目) および「心理実践実習Ⅰ」(公認心理師指定科目)、2年次は「臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)」(臨床心理士・公認心理師指定科目) および「臨床心理実習Ⅱ」(臨床心理士指定科目) を設置し、これら全てを必修科目としている。詳細は実習要綱に記すが、以下に各実習科目の概要を示す。

1) 臨床心理基礎実習

①意義と目的

本実習では、心理臨床活動を行う上で必要な基本的な態度と、臨床心理学の理論と知識、および心理的支援の技能を修得するとともに、心理的支援の現場への参加観察ならびに指導による実践を通して、心理臨床の実際を体験することを目的とする。

②展開方法・実習内容・実習施設

1年次通年科目であり、前・後学期それぞれ45時間、合計90時間を基準とするが、基準時間を上回って行われることがある。

前学期は、本学大学院人間福祉学研究科附属臨床心理センター（以下、センター）におけるオリエンテーション、ロールプレイによる実技指導、インテーク面接実習、SST実習、CBT実習、集団療法実習、ケーススタディ、および学外実習にむけた事前指導等を行う。本実習を含む臨床心理士指定科目の心理面接の基礎的技術の指導は、臨床心理士有資格者の教員が複数体制で行う。

後学期は、センターおよび教育分野の学外実習施設である適応指導教室（江別市教育委員会）において実習を行う。センターにおける実習は、実習に適切と思われるクライアントのインテークまたは継続面接への陪席等を行う。学外施設での実習は最低30時間として行う。さらに、実習終了後に事後指導の一環として本実習科目における実習体験の発表報告会、およびケースカンファレンスにも参加する。

2) 心理実践実習Ⅰ

①意義と目的

本実習では、保健医療、福祉、司法・犯罪の各分野、および、センターにおける心理臨床活動の実践、陪席、見学等を通して体験的に心理的支援の実際を学ぶ。本実習を通して、心理的支援を必要とする人に対するコミュニケーション、心理検査を含む心理査定、心理面接、地域支援等に関する知識と技能を修得することをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人と関係者の理解とニーズの把握、支援計画の作成、各分野におけるチームアプローチ、多職種連携および地域連携、心理職としての職業倫理および法的義務について学ぶ。

②展開方法・実習内容・実習施設

1年次通年科目であり、学外実習施設として、精神科病院（札幌トロイカ病院）、児童養護施設（北光社ふくじゅ園）、少年鑑別所（札幌少年鑑別所）、少年院（北海少年院）の4施設全てで実習を行う。学外実習の合計時間は最低36時間で、実習施設によって基準を上回って行われることがある。学内実習施設として、センターにおいて担当ケースにかかわる実習を最低100時間行

う。学外の実習について実習報告会での発表、センターのケースカンファレンスへの参加ならびに発表を最低14時間行う。また、センターが行う地域貢献事業にも参加し、地域の相談拠点としての役割を学ぶ。学内外の実習の合計時間は最低150時間である。学内外の実習施設の担当ケースに関する実習を通して、担当教員および学外実習指導者の指導のもと、さまざまな臨床心理学的アプローチにおけるコミュニケーションの技能、心理査定および心理療法の実践技能を幅広く修得する。

3) 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）

①意義と目的

本実習では、1年次の実習で学んだことを基礎として、公認心理師ならびに臨床心理士として活動を行う上で必要な態度および技法を修得することを目的とする。保健医療分野の学外実習施設およびセンターにおいて、実習施設の指導者および実習担当教員による指導のもと、継続的に心理面接、心理査定、集団心理療法等の心理臨床活動の実際を体験し、心理臨床の素養を確かなものにするをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人ならびにその関係者の理解とニーズの把握、および支援計画の作成等について実践的に学ぶ。学内外の実習施設で担当ケースを継続的に担当するプロセスにおいて、ケース・フォーミュレーションに取り組み、クライアントをより深く理解し、有効な心理的支援の方法を精査するための検討を行う。医療機関におけるチームアプローチや、各機関における多職種連携および地域連携について実践場面から学ぶ。一連の活動のなかで、公認心理師および臨床心理士としての職業倫理、公認心理師の法的義務についての理解を深める。

②展開方法・実習内容・実習施設

2年次通年科目であり、保健医療分野の学外実習施設として、精神科病院（さっぽろ香雪病院、札幌トロイカ病院）、総合病院（札幌医科大学附属病院）、精神科クリニック（さっぽろ駅前クリニック）のいずれか1か所の医療機関において60時間、学内実習施設として、センターにおいて240時間、合計300時間を基準として、ケースに関する実習を行う。ただし、実習施設によって基準を上回って行われることがある。上記の時間には、事前・事後指導、実習報告会、ケースカンファレンスへの参加発表を含む。また上記以外で、指導教員の学内外での心理臨床実践に参加する場合もある。

事前指導は、実習施設での実習の準備として、1年次の実習体験をふまえて、ロールプレイなどにより、面接技法の実技指導を行う。学外実習施設での実習は、施設によって対象や内容が異なるが、思春期、青年期、成人期、高齢期のクライアントの心理面接、集団療法、心理検査、心理プログラム等を、指導者による指導のもと、実践および参加することを予定している。センターにおいては、ケース担当教員の指導のもと、幼児および児童のプレイセラピーや心理査定、思春期、青年期、成人期のクライアントの心理面接や心理査定など行う。実習と並行して、定期的にケースカンファレンスを行い、担当ケースについて発表し、討議に参加する。

4) 臨床心理実習Ⅱ

①意義と目的

学内外の実習施設で担当したケースについて、学外スーパーバイザーおよび指導担当教員により、多面的な観点からスーパービジョンを受け、自己覚知とケースについての理解の深化をめざす。

②展開方法・実習内容

2年次通年科目であり、通年で45時間のスーパービジョンを受ける。学外スーパーバイザーによるスーパービジョンは、個別指導の形態で9時間以上、指導担当教員によるスーパービジョンは個別あるいは集団の指導形態で36時間以上である。

